

10月6日(水) 午後6時
アストくにさき

地域総ぐるみで子育てを！

「第3回 国東市“教育の里づくり”の集い」開催レポート



国東市政の目標“三つの里づくり”の一つである“教育の里づくり”を目指して始められたこの集いも3年目を迎えました。会場には市内の教職員や退職校長会等の教育関係者、保護者などを中心に約450名の参加者が集まり、教育課題について共通認識を深めました。

今回の集いは「家庭・地域・学校が連携した子育てを」をテーマに、まずは教育学者として全国を駆け回る 三浦 清一郎 氏 による基調講演、続いてパネルディスカッションと2部形式で行われました。

三浦先生の力強い講演に刺激され、パネルディスカッションでは3名のパネリストのほかに会場からも発言があり活発に意見が飛び交いました。

基調講演



講師 三浦 清一郎 氏

月刊生涯学習通信「風の便り」編集長／生涯学習・社会システム研究者

自分を制御するだけの力が備わっていないものに、どうして「思いやり」の行動や「やさしい態度」などを望むことができるだろうか。子どもが授業に集中し、先生の話を持続して聞くことができない時、学力のトレーニングはできない。

「生きる力」は、家を建てる順序と同じで、土台となる「体力」と「耐性」が基本。鍛えるには、困難に耐えさせ、負荷（負担となること）を与えることだ。

「体力」は身体的エネルギーの源で、「健康」や「行動能力」に係わっていく。「耐性」は精神的エネルギーの源で、「がまんする力」や「気力」に代表され、「やりたくても、やってはならないこと」をがまんし、「やりたくなくてもやるべきこと」をやり通すことは、すべて「耐性」が身についているからこそできる。

「体力」と「耐性」を育て切れば、後のことは、社会と子ども自身に任せておいても大丈夫！

「生きる力」の三角形

